

《福井市の公民館に思う》



日本一の公民館を目指して

元福井市公民館運営審議会連絡会会長・元福井県公民館連合会会長
元福井市公民館連絡協議会会長・前福井市啓蒙公民館館長

野 路 武 夫

私が公民館と関わりをもったのは、今から55年前の昭和36年4月に啓蒙公民館の主事を拝命したのが始まりです。ちょうど福井市の「公民館設置及び管理等に関する条例」が前年度に施行され、「福井市公民館連絡協議会」が結成されました。いよいよ福井市の公民館活動が表舞台に出た頃でもあったので、私なりに興味も湧き、公民館との新たな人生をスタートさせました。河野悟館長の温かい指導を受けながら、社会教育の基本について自らも進んで学び、実践活動を通して、地区住民の学習の機会づくりや活動の支援をするという公民館の役割について理解を深めていく6年間の主事時代でした。

その後は、地区内の団体やPTAなどのお世話をさせていただきながら、やがてまた「公民館運営審議会」の委員としての立場での役割が与えられ、平成6年度からは「公民館運営審議会連絡会」の会長職にも就くことになりました。福井市全体の公民館活動の質的な向上を目指すべく、課題の把握とその解決に向けた研究討議を進めると共に、委員全員を総会の参加者とするなどの改革を行い、幅広い様々な意見の集約に努めました。

平成13年4月からは地元の公民館長となり、実戦部隊の職員として、主事さん方と共に、理想的な公民館像を探る挑戦が始まりました。ブロックのみならず他地域の公民館活動の事例に学び、県内、北陸・東海をはじめ全国公民館研究集会などにも積極的に出向き、自館の取組や悩みなどを披歴し、意見を求める努力を重ねてきました。そのうち、公民館の「評価」が全国的に話題となり、その事例として発表の依頼が、東京上野の森にある「文部省の社会教育研修所」からあり、出向いて行きました。その後も公民館の全国大会などの司会や発表者としての機会に恵まれ、全国の状況の把握にとっても参考になりました。

平成21年度からは、市公民館連絡協議会のお世話もすることとなり、福井市の公民館体制の更なる充実を図るため、また職員の資質アップのため、地元大学の公開講座に参加する熱心な主事さん方が、「社会教育主事」としての資格が確保できるよう、文部科学省や大学を訪問し、実態の説明とその実現に向けて東奔西走したことは、今でも思い出深いものがあります。常に学び続ける館長・主事・公民館運営審議委員、そして地元住民がいて公民館は成長していくものだという信念で事にあたってきました。

福井市方式とまで言われる今日の公民館体制は、福井市の社会教育行政の深いご理解とご指導、そしてそれに一生懸命応えていこうとする公民館職員の皆さん、そしてこれらの教育事業や活動を第三者としてしっかり見守り意見する運営審議会委員の皆様の連携があってこそと信じています。

今後とも住民の知識教養の向上だけでなく、生きる力を養い、一歩前に踏み出すことに繋がる学びの場となり、社会の諸課題に共に知恵を出し合える「公民」を育てる「日本一の公民館」を目指して、皆様方の更なるご活躍をご期待申し上げます。